

## 健康スポーツ部会（第 10 回）での主な意見

## 【「スポーツ実施率向上のための中長期的な施策」について】

- 地域による健康格差が課題となっているところ、小規模自治体にはフィットネスクラブなどが存在しておらず、総合型クラブの役割としてはそういった点も期待されていると考えられる。
- ヘルスリテラシー、スポーツヘルスリテラシーについては文字にして示しておいた方がよい、スポーツ推進委員の役割に、そこは重要になると考えられる。
- 未来投資会議においても、ICTによるヘルスケアサービスの話が出てきているがサービスの中には、怪しげなものもあり、成果・安全性をどのように担保するか。方向性を打ち出す必要がある。いろんなサービスが民間から出てきている。
- 健康サービスに関して、成果型への誘導を図っていく必要がある。これは、必ずしも SIB にこだわる必要はない。
- 各自治体に対する問いかけの意味合いも大きい。各団体、また、人材が何をするのか、コミットメントを求めていくことも必要。
- 論点として地域の差、大都市圏と郡部では事情が異なり、それぞれの地域における進め方などを考えていく必要がある。
- 健康スポーツ医、スポーツドクター、医療との連携について、ミニマムの部分を作っていく必要がある。
- リハビリ後が重要。地域のスポーツ施設との関係はそのとおりかと思う。何か起きた時にどう対処するかという問題は整理しておく必要がある。
- 若い女性に対する視点が落ちている。
- 研修等に関して、専門家が少ない分野などにおいては、ウェブでの研修を活用するなど考えられるのではないか。
- 1 ページ目の第三段落の「なお、～」のところ、人材の育成に加え、「活用」が必要であるので追記してほしい。
- 同じく 1 ページ目の第三段落で、指導者のところ、大学生に加えて「大学院生」を入れてはどうか。大学院生は、教職免許を持っており、既に一人前の指導者

であるので、活用できると思われる。

- 総合型地域スポーツクラブの質的充実のところ、ここでいうスポーツクラブはどこまでを指しているのか補足で書いた方がよい。今の SC 全国ネットワークには、総合型クラブ全体 3,600 のうち 2,700 くらいが加入しているが、残りの 800 くらいは入っていない。これらは、登録・認証制度で入ってこない可能性が高い。そういったところの扱いをどうするのか。また、ガバナンスをどこまで求めるのか。特に法人格を持っているところとするのかなど。
- スポーツ推進委員は必置ではなくなっているので、置いていない市町村も少なくない。そのパーセンテージは示した方がよいのでは。また、置いていない市町村には置いてくれという働きかけをするのか。
- 指導者の養成講習としては、JSP0 と（公財）日本レクリエーション協会の指導者講習が制度としては重要なので、書き込んでおいた方がよいのでは。
- スポーツ団体の中身を明示した方がよいのでは。
- 障害者スポーツの指導者が不足している。このため教員免許の更新の時に、障害者スポーツを指導するという形にしてはどうか。意外とお金はかからずにできる。
- 保健体育の授業の話はどこかに入れる必要がある。議論をしていないが、前提として必要であると考えられる。
- 全体として、健常者と障害者が別々に扱われているという印象は受ける。一緒にやっていくというスタンスで進めていく必要がある。例えば、コーディネーター人材の育成について、障害者は別という印象を受けるが一緒にできればと思う。主語をはっきりさせる必要がある。
- スポーツ推進委員に関しては、地域の障がい者スポーツ協会との連携も図っていただきたい。
- 医療機関等との連携の中でも、障害者スポーツとの連携を図ってほしい。
- 障害者スポーツを推進させるのはなぜかということを考えていくと、例えば高齢者になると機能低下が起き、それを考慮したスポーツも考えていく必要があるということに通じる。
- JSP0 では公認スポーツ指導者の養成を行っているが、UNIVAS との連携も今後図っていききたい。

- 総合型地域スポーツクラブについて、SC 全国ネットワークに加盟していない残り 800 についてもできる限り巻き込んでいきたいと考えている。
- 7 ページの 5 行目のところ、施設は一つの要素であり、「施設の状況」は「施設の進捗状況と関連要因」としてはどうか。
- 成果連動型の取組の促進は、書いておいた方がよいと思う。
- 7 ページの（2）で、調査研究成果の利用促進に関しては、何のために利用を促進するのかを書いておいた方がよい。保険者が保有するデータの活用の効果など。
- ローデータの活用のところは、明確に説明をした方がよい。（実態として）調査結果が公表されているが、ローデータが扱えないものについて、扱うことを可能にするということであると思うので、それがわかるように書いた方がよい。
- 市町村でスポーツ推進委員がいないところもあるということであれば、「等」を入れるなどの工夫は必要ではないか。
- 地域での運動の場は、必ずしも（体育館などの）スポーツ施設だけではなく、公民館なども考えられる。1.（3）の 2 ポツ目の学校施設に公民館も入れてはどうか。
- 地域の課題としては、施設だけではなく、そこに至るまでのアクセスの問題もある。アクセのサポートをどうしていくか、施設整備への支援のところ、環境、アクセスという文言を加えてはどうか。
- 障害者の具体的方策のア. とイ. のところで、特別支援学校と小中高が挙げられているが、幼児も対象に入るということを入れてほしい。幼稚園でも障害者を受け入れている。特にスポーツ庁の調査でも、幼児期の外遊びの習慣がその後のスポーツ習慣にも影響を与えることが示されている。
- 自治体との取組にいくつか関わらせていただいているが、やりとりの中でスポーツ推進委員の顔がなかなか見えてこない。
- プロモーションとプロダクトをどうとらえるか。競技スポーツであれば、日本記録を出したとかにもなるが、それをスポーツ参画人口の拡大の分野ではどのように把握するか。
- ヘルスリテラシーは重要であると考えている。

- スポーツをしやすいまちづくりの観点では、女性、小さい子供も大事である。二極化が問題となっている対象でもある。
- 社会全体における占拠率やリーチを考えていく必要があり、主文において、「よって、～の活躍を期待する。」といった形での呼びかけ、提案が必要ではないか。
- 総合型クラブにおいては、介護や健康づくり、障害者のために、自治体の他の部局、関連する部局への協力を望むという形にしてはどうか。
- 場所においても、公園の利用などを考えると、自治体関係部局との連携を望む、などの記述も必要。
- ワールドマスターズゲームズに関しては、どうやったら申し込めるのかということが知られていないので、関係団体への要請が必要。
- 去年、三菱ケミカルが富山で体育館を新設したという例がある。こういった企業の施設を地域の中でどう活用していくかということも考えられる。産業界の交流の場なども必要。
- 中長期的な施策の工程表を今後作成するということで、どうインパクトのある工程表を作っていくかが鍵である。